

設備業界の社会発信へ協力

建築設備総合協会×JABMEE・設備女子会

女性の交流の輪 今後のヒントに

建築設備業界をさらに社会に発信したい……。建築設備総合協会（佐藤信孝会長）は12日、会員交流のため年2回開催している「BEサロン」に建築設備技術者協会（JABMEE、川瀬貴晴会長）が昨年発足した設備女子会（徳弘洋子会長）のメンバーを招待。会場で設備女子会のパワーが炸裂する中、佐藤会長と徳弘会長は、業界内の若手技術者や女性技術者、さらには広く社会への情報発信の大切さで見解が一致。今後の「コラボ」活動に発展をうた。



ごった返すサロン

東京・新宿区の東京ガス四谷クラブで開かれたサロンには70人以上が参加。およそ半数を女性が占めた。企画した建築設備総合協会の吉田稔副会長は「いつものサロンは理事など同じ顔ぶれが揃う20〜30人の集まり。若手にも参加してほしいと思っていた」と明かす。そこで白羽の矢が立ったのが、設備女子会。「草の根的に交流の輪が広がるように女性につ



発表する徳弘会長

なぎ役になってほしい」（吉田副会長）と大きな期待を寄せた。徳弘会長はサロンで、設備女子会の趣旨などを発表。入会した会員の感想として「設備業界で仕事する人と出会え、心強い」「不安だったのが交流を通して楽になった」などの声を紹介し、「悩みを分かち合ったり、いろん

な話ができる。設備に関心のある女性なら誰でも歓迎」と会場内の未入会の女性にアピール。一方で、男性には「社内の女性に入会を勧めたり、支援してもらいたい」と訴えた。

設備女性会との意見交換を経て、佐藤会長は「女性技術者が活躍する時代になっている。接点を持つ機会が少なかっただけにうれしい限り」と手応えを示しつつ、当協会は（設計事務所、ゼネコン、設備工事会社、メーカーなど）業種が幅広く、そのネットワークを生かせる。より社会との接点を広げ、業界を発信していくようにしたい」と強調。今後、協会誌「BE建築設備」や建築設備総合セミナーに「コラボ」の舞台を移すことも視野に、協力関係を継続する考えを示した。